

お福 公民館だより

令和 5 年 2 月号

於福公民館 美祢市於福町下2848番地1

TEL:56-0001 FAX:56-0044

Mail:ofuku@city.mine.lg.jp



於福公民館HP

菜の花の芽が出たよ!

Feb 2023 vol. 391



春が楽しみだね!





本の入替えを
しました！

まなぶ・つどう・むすぶ

おいでませ 公民館



あっという間に完成しました

12月26日(月)、老人クラブの皆さんが門松を設置されました。上地区の方は道の駅おふく、下地区の方は公民館前で作業をされました。皆さん手際よく進められ、開始から1時間ほどで立派な門松が完成しました。



町子連ふるさと教室

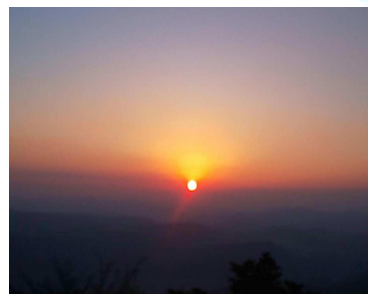
12月26日(月)、町子連ふるさと教室が行われました。しめ縄づくりでは、老人クラブの皆さんに編み方を教わりながら仕上げていきました。



しめ縄づくりの後は高校生のジュニアリーダーによるクリスマス会が行われました。レクリエーションやビンゴ大会を行い、少し遅いクリスマスを楽しみました。



初日の出 in 雁飛山頂



1月1日(祝)、雁飛登山大会が行われました。参加者は6時前から登り始め、急な坂を滑らないよう気をつけながら進み、約1時間ほどで山頂に到着。今年は天気良く、とても美しい日の出を眺めることができました。

今年、約1時間ほどで山頂に到着。今年は天気良く、とても美しい日の出を眺めることができました。

於福中学校閉校記念事業

「スカイランタン」を飛ばそう！

於福中学校閉校式後に、記念事業として「スカイランタン」を飛ばすイベントを開催します。

日時 3月11日(土) 11:00～



会場 於福中学校第2グラウンド



当日、記念事業をお手伝いいただけるスタッフを募集しています。詳しくは、中学校からの募集チラシをご覧ください。

於福中の思い出 vol.9

当時、男子生徒はバレー部か剣道部かどちらかの部活に入部することになっており、私は剣道部に所属していました。防具をつけるので、夏はとんでもなく暑く、裸足なので冬は寒くてたまらない中、部員のみんなで毎日毎日練習していたことが、中学生の頃を思い出すとまず浮かびます。

土日にも練習がありましたが、時には市外の練習会や大会に参加することもあり、その際は顧問の先生が車を運転して連れて行ってくださいました。社会人になった今思うと、毎日の練習に加え、休日もつきあっていただいた顧問の先生には本当に感謝しかありません。

【30代・男性】



美祿市 ダーツの旅

美祿市観光協会公式YouTubeチャンネルでは、「美祿市のいろんな場所を知ってもらいたい」、「美祿市のいいところを再発見したい」という思いから、2020年11月から「美祿市 ダーツの旅」という動画を投稿しています。美祿市在住の3人組がダーツの当たった場所に向かい、その地域や人の魅力を伝えるという企画です。現在までに36本が投稿されており、最新の動画では於福町下地区が紹介されています。



カメラで読み取り

または

美祿市ダーツの旅

検索



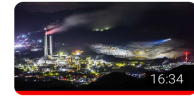
← # 30 於福町
下 前 編 は こ ち ら



#番外編【山口県 美祿市 ダーツの旅】...
一般社団法人美祿市観...
321 回視聴・3 か月前



#28【山口県 美祿市 ダーツの旅】...
一般社団法人美祿市観...
1128 回視聴・4 か月前



#29【山口県 美祿市 ダーツの旅】1...
一般社団法人美祿市観...
478 回視聴・3 か月前



#番外編【山口県 美祿市 ダーツの旅】...
一般社団法人美祿市観...
198 回視聴・2 か月前



#30【山口県 美祿市 ダーツの旅】...
一般社団法人美祿市観...
314 回視聴・2 か月前

知っちよろ? 於 福 Vol.16 雁飛山

大嶺から麦川沿いに北上して下田代に入ると、目を見張るような大きな庚申塔がある。さらに上田代に入り右カーブすると、今度は大きな猿田彦の石塔に出会う。この二種の関連が面白い。庚申信仰とは、六十日ごとにやってくる庚申の夜に寝てしまうと、身体から三戸の虫がこっそり抜け出して、天帝にその人の罪業を告げ口し、その祟りで人は死ぬ、という宗教の思想である。そのために庚申の夜は地区の人々が集まって、夜を徹して酒宴を開くという交流の場的要素、すなわち現在の庚申待、庚申講の原形である。しかし徹夜は大変で、室町末期頃から寝ずの番のかわりに庚申待供養塔を建てるようになった。その塔が立派な地区は近所共同体組織が緊密だったと考えてよいだろう。

また庚申の申が猿に結びついて「猿田彦」信仰に変化した例も見られる。その猿田彦は天孫ニギノミコが天下るのを先導した神で、道開きの神、五穀豊穡の神である。長門地区には阿武川を除いて大きな川はなく、また分水界が大きく北によっていることを考えると、山間の水不足は想像を絶するものであったはずで、この地区も含めて長門地区の庚申塔は、おそらく申(猿)であり猿田彦、すなわち五穀豊穡を祈って立てられたように思えてならない。一般的に長門地区は周防部に比べて庚申塔の数も多く、また大きく立派である。

事実、山に入ると、土地の人が「水神さま」と呼ぶ石祠がある。石祠の金石文には「文政十二年」とあり、今でも毎年2月11日には小さなお祭りが行われているという。祠の前には石を組んで水を蓄える池が造られており、これが水神であることは一目瞭然である。とくに山の西麓は狭く、田畑もそれほど山奥には入り込んでいない。これは水不足を意味しており、また文政12年(1829)は飢饉の天保年間の前年にあたることを考え合わせても、土地の人たちの水に寄せた思いの深さは想像に難くない。

雁飛山、実に美しい名である。しかし同名の山は20万図の記載では他に見当たらない。函館に雁皮山^{がんびさん}という山があるが、これは本来アイヌ語であり当て字の可能性が高い。美祿の雁飛山はすでに江戸期の史料に出ており、昔から呼ばれていた名である。登りは結構しごかれるが、山頂から展開する360度の景観は疲れを吹き飛ばすことだろう。

【山と溪谷社「山口の山」より】

